

サブサハラ・アフリカ地域 オフグリッド太陽光事業

【事業概要】

サブサハラ・アフリカ地域において、未電化地域の村落にあるキオスク(小売店)に太陽光パネルを設置し、キオスクに来店するユーザー(BOP層)に対して、LEDランタンの充電・レンタル、及び携帯電話の充電サービスを行うもの。

UTECH
Co-Founders for Innovation

JICA

DBJ

出資 ↓

(代表企業のみ記載)

WASSHA



灯油ランプをLEDランタンに置き換えて勉強する子供

1. BOP層に電気のある生活

- ✓ サブサハラ・アフリカの未電化人口は約6億人。2025年まで未電化人口は増加見込み。電化率は32%(地方部は17%)。電力にアクセスできないBOP世帯は、料理用の木炭・薪や、照明用の灯油ランプ等、伝統的な一次エネルギーに依存しており、煙による健康被害や、温室効果ガスの排出が問題となっている。
- ✓ 本事業は、灯油ランプより明るく、安全で、安価なLEDランタンのレンタルサービスを提供するもの。小売店の夜間営業や、新たなビジネス機会の創出、子供の教育時間の増加、灯油ランプを代替することによる家計支出の抑制、健康状況の改善、温室効果ガスの削減等の効果が見込まれる。

2. 本邦技術の活用

- ✓ 東京大学発の本邦技術を活かした事業。
- ✓ TICAD VIナイロビ宣言(民間投資、起業、イノベーションの強化)にも合致。